

越前市食育実践プログラム



平成18年8月25日

越 前 市

はじめに

市民一人一人が育てる「元気で活力あふれるまち越前市」を目指して

この度、市民一人ひとりが健康で豊かな生活を実現させるため、また、越前の地域性や「越前ブランド」を活かした「食育」の推進を図るため、春に策定した越前市食育推進計画の内容を具体的に実践する「越前市食育実践プログラム」を策定しました。

福井県出身で陸軍薬剤師だった「石塚左玄(いしづかさげん)」は、論文の中で、地方に先祖代々伝わってきた伝統的食生活にはそれぞれ意味があり、その土地に行ったらその土地の食生活に学ぶべきであるという「身土不二(しんどふじ)」を説いています。

「医食同源」の言葉のとおり、「食」はからだの基本となる大切な要素です。特に、越前市の未来を築く子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、健全に成長していくためには、なによりも「食」が大切です。

しかしながら、親子ともに多忙な現代社会においては、「食」の重要性が軽視される傾向にあり、朝食の欠食など食生活の不規則化、食栄養バランスの偏向といった問題が生じており、国が策定した食育推進計画が指摘しているように、その対応が急がれています。

今回策定したプログラムの中で、地産地消や食改善の積極的な推進を目指した目標数値を設定しました。今後 各食育関連事業を実践していく上で、これらの目標を達成するために、市はもとより、家庭、地域、学校など幅広く市民の方々のご理解とご協力をいただきたいと思います。

終わりに、本プログラムが越前市の食育推進にとって、大きな原動力となることを心から願います。

平成18年8月

越前市食育推進委員会

1 越前市食育推進計画について

平成17年度において越前市は、国の基本計画や県の作成した食育活動マニュアルをふまえて、市民が健康で豊かな生活を実現させるため、越前の地域性や「越前ブランド」を活かした「食育」の推進を図ることを目的とした『越前市食育推進計画』を策定しました。

本計画の基本理念の中で、子どもの時期が「食」に対する考え方を形成する途上であり、適切な食育を実践することで、食生活に必要な知識や判断力を養成し、地域社会全体が食生活を見直すことが期待できることから、学校、保育園、家庭、地域のみならず、生産者や小売業など「食」に関するあらゆる関係機関の密接な連携の下、みんなが楽しく「食」について考えることができる取り組みを積極的に推進していくことを掲げています。

なお、本計画が成果を上げるためには、市民一人ひとりが重要性を十分理解し、自らの意思で食育に取り組むことが必要であり、子どもや市民が主役となる運動を推進していきます。

2 実践計画と期間

現在の食生活は「食」に関する正しい知識よりも利便性、経済性が追求される傾向があり、その結果、栄養バランスの偏りや肥満等、様々な問題が生じています。このような中、近年「食育」という概念が注目されるようになり、食にまつわる課題を改善していく取り組みがなされているところです。「食育」は、すべての市民を対象に推進されることが肝要ですが、特に成長期の子どもたちが健全な食生活を実践する力を身につけることは、健全な心身と豊かな人間性を育む基礎となり、越前市が活力と魅力にあふれる都市として発展する上で重要です。

越前市食育推進計画において、学校、家庭及び地域との連携を図りながら子どもを中心とした食育に取り組む方向性が打ち出されました。今回作成するプログラムは、計画に明記された基本的施策の各項目毎に具体的な事業を掲げ、数値目標を定めて実践するものであります。

なお、越前市食育推進計画の計画期間は市総合計画との整合性を図る上で、本年より平成23年度までの6年間と設定しました。その上で実践期間は、社会情勢の変化、事業の内容を検討し補強・修正を行っていくために、2年間(平成18年・19年度)を目安として、第1期の短期計画を作成し、今後見直しを図っていくこととします。

3 実践プログラムの作成方針

実践プログラムは、推進計画を踏まえ、第1期として重点的に取り組む基本的施策及び関連事業を中心に作成しました。その他の項目については、第2期以降に取り組む予定です。

4 食育推進の数値目標の設定

本計画を目に見える形で推進するために平成23年度までの数値目標を定めます。

朝食を欠食する子どもの割合を0%に近づける。

【平成17年度調査では、毎日欠食2% 週半分欠食3.1%】

小学校給食における地場産物（県内産）を使用する割合を品目数ベースで12品目以上、重量ベースで35%以上とする。

【平成17年度県調査では、越前市は重量ベースで30.1%、県平均25.8%】

食育人材バンクの登録者数を120人以上にする。

【平成17年度県食育ボランティア登録者数は、越前市16名】

越前市内での野菜と果実の販売額（地産地消）を4%以上増やす。

【旬菜.Com 平成17年度販売実績（越前市分）30,900千円を地産地消の目安として、毎年0.6%以上の増額を計る。】

「食事バランスガイド」を活用した食生活改善推進員養成講座で、推進員（リーダー）を100名養成する。

【推進員養成講座で、毎年15人以上養成する。】

5 計画の管理

1. 各事業ごとの年度計画・点検管理

越前市行政評価システムを利用し、本計画の進捗状況について把握することで、この計画に掛かる経費や効果を見直します。

2. 計画の見直し

第1期実践プログラムの内容の検証及び社会情勢の変化等を勘案して、平成19年度中に第2期実践プログラムを作成します。内容に関しては、広く市民、関係者の意見を聞くために、食育推進委員会・幹事会を開催して修正を行います。

6 基本的施策（計画より抜粋）

1) 学校、幼稚園等における食育の推進

「学校給食」を生きた教材として位置づけ、「食」に関する教育の充実を図るとともに、望ましい食習慣および豊かな人間関係の育成に努めます。また、地域の食育活動や家庭との密接な連携により食生活の改善に努めます。

(1) 給食による食育の推進

(2) 体験活動を通じた食育の推進

(3) 家庭や地域と連携した食育の推進

(4) 地産地消の推進

具体的実践事業

事業の種類		対象者	実施時期	事業費 (千円)	担当
事業名称	事業目的・概要				
レッツ“食育”(仮称)	<p><u>食育強化月間・食育週間の設定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月を食育強化月間に、毎月19日を含む前後1週間を食育週間に設定し、各学校において食についての意識(感謝、思いやりの心)を高める運動を展開する。 	市内幼稚園 小学校・中学校 8,600人	H18～H19	240	学校教育課
エンジョイ“給食”(仮称)	<p><u>安全で楽しい学校給食の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、和やかな食事環境を工夫する。(ランチルーム、飾り付け、BGMなど) ・スクールランチの選択性給食や小学校でのセレクト給食等を実施する。 ・コミュニケーションの場としての給食(ピクニック給食・お楽しみ給食など) ・食文化や食事マナー、配膳の指導 	市内幼稚園 小学校 ・中学校 8,600人	H18～H19	1,000	
食育のススメ(仮称)	<p><u>食に関する指導の充実と工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた食べる力を育て、「楽しく食べる子ども」の姿をめざす。 ・学校や地域の実態に合わせ、教科・領域を関連づけて「食に関する指導の年間計画」を作成し実践する。 ・栄養教諭、学校栄養職員、養護教諭等の専門性を生かし、担任とともに子どもの実態に合わせ指導する。 ・毎日の健康観察を通して朝食の大切さについて指導する。 ・ゲストティーチャーや体験活動等を生かした授業を工夫する。 <p><u>食に関する学習教材の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生きた教材」としての給食を活用する。 ・親しみやすい学習教材の開発(食育キャラクターや食育ゲームなど) ・地域や保護者との連携を図る(給食便りや給食ニュース、給食試食会や招待給食などを通して、栄養バランスや朝食欠食等について呼びかける。) 	市内幼稚園 小学校 ・中学校 8,600人	H18～H19	1,000	学校教育課

2) 保育園における食育の推進

食べることは生きるための基本であり、保育園給食は子どもの健やかな心と身体の発達に欠かせないものです。

子どもの健やかな心と身体をはぐくむために、「なにを」「どれだけ」食べるか、また誰と食べるかなど、人との関わりも含め心の安定を図るための食育を「越前市保育園食育全体目標」に基づき推進します。

- (1) 保育園給食を情報の発信源とした食育の推進
- (2) 園児の体験活動を中心とした食育の推進
- (3) 家庭や地域と連携した食育の推進

具体的実践事業

事業の種類		対象者	実施時期	事業費 (千円)	担当
事業名称	事業目的・概要				
食情報発信	食育を推進するための情報を積極的に発信する。 ・給食だより、園だより等の情報を発信 ・保育園ホームページ食育コーナー ・玄関食育スライドショー ・給食サンプル展示、使用している地元食材等の紹介	園児、保護者 5,200人	H18～H19	0	児童福祉課
食育体験活動	体験を通じて、食育を推進する。 ・作物の栽培から収穫、調理までの体験を通じた食育 ・箸のもち方、あいさつ等食事マナーや食への感謝、思いやりの心を育む体験 ・保育の中に食に関する遊びを取り入れた活動 ・給食食材の栄養バランス板への貼り付け等からだと食物の関係の学び ・ゴミの分別や清潔な食環境に関する体験活動	園児 2,600人	H18～H19	50	

家庭や地域との連携	食育推進のため、家庭や地域との連携をすすめる。 ・作物栽培体験を中心とした食育の推進 ・保護者対象食育講演会、相談会の実施 ・七夕、餅つき等の園行事時「伝承料理親子体験」 ・個別食育指導体系による健康づくりの推進	園児、保護者 5,200人	H18～H19	50	
キッズ食育指導者の育成	先進地キッズキッチン手法の研修 (市保育研究会委託)	全園食育指導者 50人	H18	150	

3) 家庭における食育の推進と市民との連携及び啓発

本来、「食」に関する情報や知識は家庭の中で、両親や祖父母といった大人たちから子どもたちへ受け継がれていくものでした。しかしながら、ライフスタイルの変化や「食」の外部化に伴い、食習慣の乱れが生じてきています。

福井県は共働き率が非常に高い県です。さらに、核家族化が進む中で、食事を一人でする「孤食」や家族ばらばらのメニューを食べる「個食」といった問題も見られます。

こういった問題を解決するためには、家庭内で食育を行う保護者への「食」に対する認識を深めるとともに、意識の高揚が必要です。家族が「食」を楽しみながら望ましい食習慣や知識を習得することができるよう、食生活改善推進員会や学校などの関連機関と連携し、食育の重要性や健康的な食生活を送るための適切な栄養管理に関する知識等の啓発に努めます。

食育を効果的に推進するには、地域の食生活改善推進員、自治活動組織、NPO 団体、食育ボランティアなど食育の重要性を理解し、みずから活動を進める市民と密接に連携・協力することが重要です。また、食育を広めることは、市民が健康で豊かな生活を営む上での礎となります。市民一人ひとりが食に関心を持ってもらえるよう、食育について広報やホームページなどでお知らせします。

- (1) 生活リズムの向上
- (2) 望ましい食習慣の育成
- (3) 食生活改善推進員などとの連携
- (4) 食育ボランティアとの連携
- (5) その他の関係者との連携
- (6) 食育推進体制の取り組み
- (7) 食育活動の啓蒙
- (8) 食育に関する講演会等の開催

具体的実践事業

事業の種類		対象者	実施時期	事業費 (千円)	担当
事業名称	事業目的・概要				
公民館食育講座	公民館講座の中で食生活改善推進員の指導により「食」の大切さを学ぶための食育講座を開催する。また、講座のメニューの中に「正しい食生活」と題して、三食きちんとバランス良くとる事、特に朝食の大切さを取り上げる。	親子 150組 300人	H18～H19	500	生涯学習課
食育推進の拠点づくり	食育推進を進めていくための体制の整備や人材育成・市民の相談や情報提供さらには、食育体験などに対応するための「(仮称)食育プラザ」を設置する。	市民 食育ボランティア	H18～H19		農政課
健康21推進事業	・健康21フェスタ(仮称) 健康21計画推進のため、3つの大目標達成に向け、地域及び関係団体、事業所等と連携を図りながら実践活動を展開する。特に、「からだの健康」では生活習慣を見直すということを目標に、今年は食に関する学習会を開催する。 「食育講演会」「親子料理教室」等	市民	H18～H19	100	健康増進課
食生活改善推進事業	・食生活改善推進員養成講座及び育成研修会の開催 市の健康づくり事業や地域で積極的な取り組みをするため、食生活改善推進員の養成・育成に努め、食生活改善推進員会の組織強化を図る。 ・健康食ランチバイキングの開催 食生活改善推進及び食育推進のために開催する。 ・情報交換会の開催 地域や学校等で幅広い活動を展開するために食育ボランティアの一員としての必要な情報等を得られるよう協力体制を整える。	市民	H18～H19	1,000	健康増進課

環境教育事業	<ul style="list-style-type: none"> 環境フェア「（仮称）環境と食」食育コーナーの設置 <p>環境教育事業において自然環境の保全が重要であることの市民向け講座を毎年複数回開設してきたが、今年は、事業の一環として「環境と食」というテーマのもと食の安全に重点を置いた環境フェアを開催し、それに関わる人々の活動や環境保全の重要性について広く市民に知ってもらおう。</p>	市民	H18～H19		環境政策課
広報活動	<p>ホームページの開設及び広報紙による食育の推進。及び生産者における安全で美味しい食材活用の発信</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地場産農作物の生育状況などを学校給食関係者へ情報発信する。 2. 朝食の大切さを伝える情報の発信。 	市民	H18～H19	200	農政課 学校教育課 健康増進課 生涯学習課 児童福祉課 生産者
「親子 de 食育」モデル事業	<p>「市地域活動連絡協議会（母親クラブ）」に委託</p> <p>自由な発想で「農業体験・市場体験型食育活動」を実施</p>	3クラブ 100組	H19	350	児童福祉課

4) 地元の農産物を使った食育の推進

食品に対する安全や安心に関心が高まる中、地元で生産される旬な食べ物が求められ、地域で親しみ育まれてきた食材や食べ方が見直されています。

越前市は、典型的な水稻単作地帯ですが、野菜としてはキュウリ、トマト、スイカが主要作物であり、豚肉は県下第一の産地です。また、菊やサトイモ・そばなど地域特有の農産物も生産されています。

地元で取れる食材を使う地産地消は、生産者と消費者の距離を近づけ、両者の顔が見える関係を作り、安心して安全、しかも、つながりを深めることができます。特に、子どものころに地元で採れる新鮮で旬な食材に触れることは、健全な食生活を育み、地域の味に親しむこととなります。

地産地消の取組みを通じて、市民が安全な食べ物を選び、安心した食生活を送る意識の高揚を図ります。

また、越前市には打刃物、和紙、木工があり、隣接市町には漆器や焼き物といった地場産業があります。これらの地場産業とも連携して、器や食卓の彩りへの活用など、食を豊かにし楽しめる取組みも模索していきます。

(1) 給食における地元の農産物の活用

(2) 市民生活における地産地消の推進

(3) 伝承料理の普及

具体的実践事業

事業の種類		対象者	実施時期	事業費 (千円)	担当
事業名称	事業目的・概要				
食材の生産体制の整備充実、生産者の育成	地場産農産物の生産増を目指した支援活動、生産者の育成支援	生産者 担い手 営農協議会	H18～H19		農政課
地産地消の推進	・学校給食に地元農産物の活用を進め、地産地消の関心を深める。 ・地場産農産物を学校給食に積極的に取り入れるために、生産者と流通業者、給食委託業者、学校給食関係者、PTAなどとの連絡会を開催する。	市内幼稚園 小学校・中学校 など食の関係者	H18～H19		学校教育課 農政課
伝承料理の推進	日本の食文化の原点を見つめ、子どもに食の大切さと、食すことにより身体と命の大切さを教える。 (伝承料理講習会、親子で学ぶ伝承料理教室、体験) 協力：自治振興会、食生活改善推進員、高齢者等	親子・高齢者 350人	H18～H19	600	生涯学習課 (各公民館)

5) 体験を通じた食育の推進

越前市の農家世帯は年々減少しており、家庭での食育を担うお父さんお母さん世代にも農業を体験したことがない方が増えています。

体験するということは、直接そのものに触れ、様々なことを感じるすることができます。特に感受性豊かな子どもの時期に体験したことは、大人になっても貴重な経験として残ります。

食材を育て収穫し、それを調理して、おいしくいただくことを体験することにより、食生活に必要な基本的習慣、態度が身につくよう推進します。

- (1) 農業体験による食育の推進
- (2) 調理体験による食育の推進
- (3) 子どもと地元農家との交流

具体的実践事業

事業の種類		対象者	実施時期	事業費 (千円)	担当
事業名称	事業目的・概要				
特色ある食育体験活動	地域や学校の実態に応じた体験活動を工夫する。 (古代米の栽培・収穫、茶摘み、大豆栽培・味噌作りなど)	武生第二中学校、万葉中学校、味真野小学校、南中山小学校 服間小学校 他	H18～H19	1,200	学校教育課
大根まるごと体験隊 (市保育研究会委託)	親子が生産者やボランティアなど地域の人と触れ合いながら、大根の種まきから収穫、調理までの一連を体験し農業や食に関心を深める。 3回シリーズ 1回目・・・畑おこし、種まき体験 2回目・・・収穫体験 3回目・・・調理体験(大根パーティ) いろいろな大根の食べ方と子ども向けそば料理対象・・・市内幼児親子(就学前)	市内5歳児親子(就学前) 40組	H18	350	児童福祉課
農業自然体験	田植えから稲刈りまで一年を通して米づくりを体験し、その苦勞と収穫するときの喜びを学ぶ。 地域で畑を借りて、じゃがいも・さつまいも・南瓜等の植苗や収穫をし、獲れた食材を使った料理をすることで、命の大切さや、作る楽しみなどを味わう。	住民と小学生 500人	H18～H19	750	生涯学習課 (各公民館)
餅つき、そば打ち体験	市内各幼稚園等に餅つき、そば打ちの機材を貸し出し、餅つき・そば打ちを体験する。	小学生の親子 幼児も含む	H18～H19	0	農政課 農業ふれあい会
旬菜味の展示会	親子で農作物を収穫し、料理体験を通じて、農産物生産に対する理解促進を図り、学校給食における地産地消を推進する。	小学生の親子 幼児も含む	H18～H19		旬菜.com

<p>食育人材バンク</p>	<p>・食育人材指導者の発掘 学校・幼稚園の授業や公民館の行事等で、食育体験活動に協力してもらえる人材を多方面から募集・発掘して、食育事業が円滑に進めることができるようにする。(市内生産者・食品業者・流通など食に携わる人々)</p>		<p>H18～H19</p>		<p>農政課 旬菜.com</p>
----------------	---	--	----------------	--	------------------------

食育推進委員会の経緯

日 時	議 事 内 容
平成18年6月 1日	第1回食育担当者会議 ・スケジュールの説明、越前市食育実践プログラム（案）の作成
平成18年6月15日	第2回食育担当者会議 ・越前市食育実践プログラム（案）の作成
平成18年7月 4日	第1回食育幹事会 ・越前市食育実践プログラム（案）の作成・審議
平成18年7月12日	第1回食育推進委員会 ・会長選任、食育推進委員会の役割、実践プログラム（案）審議
平成18年7月20日	第3回食育担当者会議 ・越前市食育実践プログラム（案）の内容検討
平成18年7月25日	第4回食育担当者会議 ・越前市食育実践プログラム（案）の内容検討
平成18年7月31日	第2回食育幹事会 ・越前市食育実践プログラム（案）の内容検討
平成18年8月 9日	第2回食育推進委員会 ・越前市食育実践プログラム（案）審議
平成18年8月21日	越前市食育実践プログラムを越前市長に提言

越前市食育推進委員会委員名簿

食育推進委員会

所 属 ・ 役 職		氏 名
会長	副市長	福嶋 祥介
副会長	教育長	中島 和則
副会長	旬菜・com代表	大滝 宏之
委 員	今立担い手農業者連絡協議会代表	平澤 一広
委 員	越前市学校給食研究部代表	田中 誠子
委 員	越前市健康づくり推進委員会代表（食育担当）	永宮 民恵
委 員	越前市消費者グループ連絡協議会代表	佐々木 信子
委 員	越前市食生活改善推進委員会代表	安藤 スミ子

委員	私立保育園栄養士代表	慶家 喜美恵
委員	農業ふれあい会代表(食育ボランティア)	大久保 栄一
委員	農村婦人研究会代表(食育ボランティア)	久野 朝子
委員	福井県栄養教諭代表	大谷 真由美
委員	P T A代表	山口 ひろみ
委員	教育委員会事務局長	横井 栄治
委員	福祉保健部長	服部 秀一
委員	産業経済部長	西藤 浩一

幹 事 会

幹事長	教育委員会事務局長	横井 栄治
副幹事長	福祉保健部長	服部 秀一
副幹事長	産業経済部長	西藤 浩一
委員	児童福祉課長	国定 博司
委員	児童福祉課グループリーダー	前田 弘子
委員	健康増進課長	庄司 透
委員	健康増進課グループリーダー	石本 麗子
委員	学校教育課長	清水 俊之
委員	学校教育課グループリーダー	山崎 智幸
委員	学校教育課主幹	岩崎 弘美
委員	生涯学習課長	井上 弘之
委員	生涯学習課副課長	小柳 和彦

事 務 局

産業経済部農政課	課 長	佐々木 哲夫
産業経済部農政課	副課長	大西 文明
産業経済部農政課	主 幹	山田 洋和
産業経済部農政課	主 事	田中 知世